

# 担任の先生へ

## 読み書きが苦手な子供について

### ◎（発達性）読み書き障害とは

学習障害の主要な障害の一つ。全般的な知的な遅れや視覚や聴覚などの障害がなく、学習環境や本人の努力にも問題がないにも関わらず、文字の「読み書き」に困難が認められるもの。文字の読みの障害があると結果的に書字の障害もみられるため、読字障害イコール読み書き障害と表現されます。

※文字の使用が求められる小学校就学以降に見つかることが多く、現在では、特別支援教育の主要な対象の一つとされています。

具体的には・・・

**読みの困難**・・・「形の似た字を間違える」



「文章の音読に時間がかかる・たどたどしい」

「どこで区切って読めばいいかわからない」

「『は』を『わ』と読めずに『は』と読む」・・・等

**書きの困難**・・・「文字を左右逆さに書いてしまう」

「漢字を部分的に間違える」

「書き順をよく間違える、書き順を気にしない」

「字を書くのに時間がかかる」

「『わ』と『は』、『お』と『を』のように耳で聞くと同じ音の表記に誤りが多い」

「早くかけるが雑である」・・・等



※これらは、個人の発達の差が大きい1年生の前半までは、多くの子供に見られます。1年生の終わり頃になってもみられる場合は、困難さがあると考えてよいです。

参考：「特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン」

診断と治療社 2010年

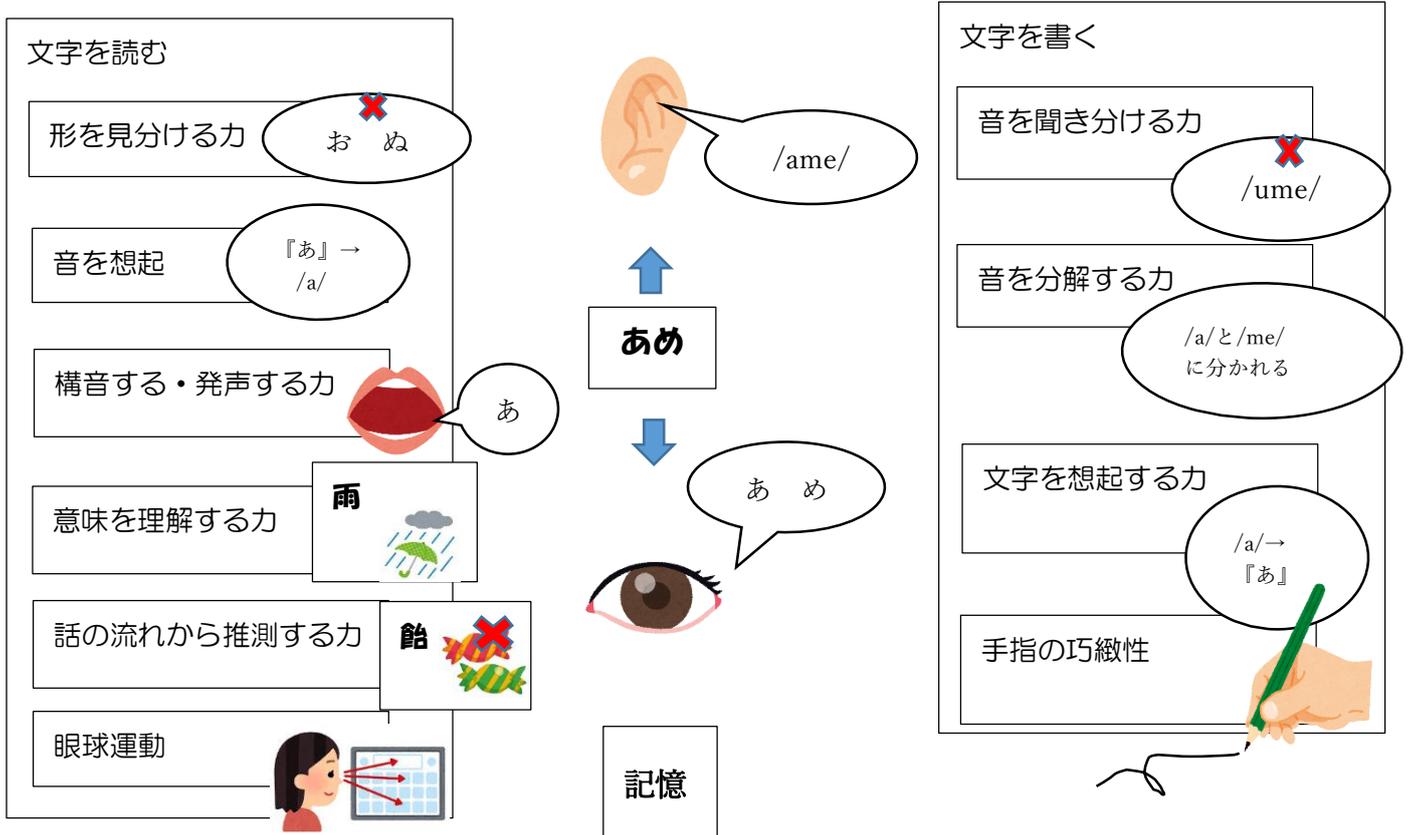
### ○読んだり書いたりすることが苦手なことによって

- ・国語以外の学習にも困難がみられる  
（「勉強する気がない」「努力していない」などと誤解を受けてしまう）
- ・文字を読む機会が減ることで、語彙や知識が増えにくくなる
- ・学習以外の意欲低下や心身などの不調、不登校などになる
- ・自己肯定感が低くなる



引用・参照：国立精神・神経医療研究センターHP  
先生のための教育事典 EDUPEDIA HP  
国立研究開発法人 国立成育医療研究センターHP

文字を読んだり書いたりすることは、とても複雑な処理！！



読み書き障害とは、

**「学べないのではなく、学び方の誤りが起きている」と言われています。**

**そして、それが続くと「『無力』は学習される」**先生方の理解が子供たちの気持ちを救います。

### ◎担任の先生にお願いしたい配慮事項

#### ① 課題の量を調整してあげてください。

他の子供たちと同じような量をこなすのはかなり負担です。

- ・宿題の音読の量を減らす。
- ・写す板書の量を減らす。



#### ② 時間をたっぷりとってあげてください。

問題を読むにも、答えを書くにも他の子供たちよりずっと時間がかかります。

#### ③ 考える時間、話し合う時間、文字を書く時間などを1時間の授業の中で分けて取ってください。

考えながら文字を書く、話し合いながら板書を写す、などはとても高度なことです。文字を書く時間を分けてとることで、考えることや話し合うことに参加できる時間が増えます。

#### ④ 音読の際は、始めの場所を指し示し、指で追わせてください。

### ◎ことばの教室では

- ・音韻意識を高める指導（しりとり、「た」抜き言葉、さかさ言葉など）
- ・語彙を増やす指導
- ・音を視覚化して音を認識しやすくする指導
- ・絵と合わせて形を印象づけて字の形を学習する
- ・ゴロ合わせて文字の書き方を学習する
- ・フラッシュカードのようにして文字と音を対応させて学習する

しかし、困難なことをできるようにすることは、とても長い時間と労力、そして心理的負担を伴います。ことばの教室の担任は、在籍学級の担任の先生と相談して、本人の力を高める指導と配慮のバランスについて、相談させていただいています。